

## JSAF 外洋東海第 99 回理事会議事録

- 1.開催日時 2022 年 12 月 12 日 (月) 午後 7 時 00 分～9 時 00 分
- 2.開催場所 Zoom によるオンライン会議
- 3.出席理事 (本人出席)  
大島茂樹、坂谷定生、川合紀行、岩瀬喜貞、三浦信郎、水越英次  
中村 孝、大橋哲二  
(委任状出席)  
龍野信人、奥田義明、林泰 成  
定足数 10 出席数 11 (成立)

### 4.議事内容

定刻になったので、大島会長議長となり理事会の開会を宣す。  
議事録署名人として、川合紀行、岩瀬喜貞の両氏を指名後議事に入る。

#### 1) JSAF 及び外洋艇推進グループに関する報告について

**岩瀬 JSAF 水域理事**より報告があった。

小笠原レースについては、現地の宿泊事情に配慮して、これまでより早くスタートしてゴールデンウィークまでにフィニッシュするという日程で三崎をスタートさせるようだ。もう一つの沖縄—小笠原コースについては、参加艇が集まらないので、成立しないようだ。

ジャパンカップは本年度も開催されず、関東での開催で調整をしているようだが、問題が多くあって纏まらなると聞いている。

大島会長これを受けて川合理事に情報を求めたところ、川合理事からはいろんなクラスを作って艇数を確保しようとしている情報もあるが、これを実施するとクルーの取りあいが起こるし、泊地をクラス別にしてもクリアーするのが難しいようで、それでは東海か関西での開催などいろいろ問題がありそうな状況だとの情報提供があった。

**坂谷専務理事**からは、JSAF より今まで述べられたことを踏まえて、参加できそうなオーナーの話を知りたいので、どなたかを推薦してほしいと依頼があった。

この後、誰を推薦するか協議したが、この場では決まらず常任委員会に一任となった。

#### 2) 委員会報告

<レース委員会>

##### 三浦委員長

今年については何とかうまく運営が出来たと思うが、人手不足が深刻になってきている。ほとんど同じメンバー4～5人が担当しているが、この中で欠ける人が出てくると体制が崩壊してしまうし、次年度参加艇が増えてくるとさらに状況が厳しくなる。今はハーバーのスタッフに助けてもらうことが多いので今後については何とか考えていきたい。  
外洋東海でのプロテストのスタッフが弱いように思うが、何か考えた方がいいのでは。

<ルール委員会> 三浦氏の提案を受けた形で

**大島委員長**

私もこれまでプロテスト委員会に入って活動はしているが、A級が少ないので、かなりいるB級3人をプロテストにあたらせるというのも一つの手だろうし、今年は育成など何かやる方向で考えます。

<計測・安全委員会

**川合委員長**

IRCもTRSも艇数が減少しておりレース参加艇が減少している。来シーズンに向けて新艇が1艇増え、復活してくれそうな艇もいくつかある。何とか活性化してくれるといいと思っている。

安全に関しては本年度改正があったので、今後大きな変更は無いと思われる。あればHPにアップする。

<海事普及委員会>

**水越委員長**

本年は活動が出来なかったもので、特にありません。

大島会長：岩瀬理事がこの方面は明るいので、副委員長に岩瀬さんを推薦します。

<区報・IT委員会>

**岩瀬委員長**

活動が出来ていないが、今後にはSNSを立ち上げていかないとHPのみでは接点が少ないと思う。

<総務・財政委員会>

**坂谷委員長**

活動がし切れていないので、経費的には予算を使い切っていないという状況だ。

今後のことも含めこの後相談するのでよろしく。

3) 2022年度開催レース決算報告

**坂谷事務局長**より、「第30回三河湾周遊レース」「沖縄-東海ヨットレース2022」「第47回五ヶ所湾合同レース」「第36回エリカカップヨットレース」「第63回パールレース」の会計報告が添付資料のとおり説明があった。特に質問、指摘は無かった。

4) 現状での2022年度収支状況について

**坂谷事務局長**より添付資料のとおり、11月30日現在の収支状況報告があった。

収入合計は昨年度からの繰り越し含め8,364,906円、支出はこれまでに5,791,278円で、残高は、2,573,628円となっており、今後12月1,2,3月と経費が発生するが、最終的には黒字となる予想だ。

5) 今年度事業の反省点と来年度への展開について

**大島会長**：今年のレースはデニスコナー以外は開催できた。全レースにおいてパーティーの開催はしなかったもので、決算はほとんどが黒字となった。次年度にかけては現状のコロナに

対する考え方が世の中変わってきたので、年末の表彰パーティーも含め通常に近い状態で出来るのではないかと思います。

**川合：**8月にコロナが一番多くて大変でしたが、何とか乗り切ったという感じです。来年はコロナがどのようになるかが心配ですが、何とかやれるのではないかと感じています。ただコミッティーが決まった人間ばかりがやっているの、若手を引っ張って何とかする必要があるが、なかなか思うようにいかないの、そこが心配だ。

**大島：**KYCにおいて適切な人材を何とか運営側に取り込みたいと考えている。

**大橋：**運営に携わってくれる人を探すにも、レースに出たい人なので、難しいところがある。ただ、ここ3年はそういうことも出来なかったの、今後いろいろやってみようと思う。

**中村：**運営の手伝いについて声をかければやってくれる人はいると思うが、知り合いが声をかけることが必要だろう。今年はレースのアフターパーティーが無かったので黒字になっているという話があったが、パーティーが無いのならエントリーフィーをはじめから低くしてはどうかと思うし、検討してほしい。また、コミッティーをお願いする場合会員でなくてもいいように配慮してほしい。

**岩瀬：**伊勢湾ではJSAF 離れが甚だしいので、海域のクラブレース（3レース程度）をピックアップして成績優秀者を表彰して商品を出すような方策を考えないと完全にJSAF 離れになってしまい、伊勢湾ではJSAF に繋ぎ止めることは益々難しくなる。

**中村：**以前フリート助成金というものがあって、各フリートがうまく資金を使えたというのがあったが、今は無いから何か考えてもいいかも。

**大島：**何か早速やり方等を考えましょう。

## 6) 2023 年度会費等の調整について

会長命により**坂谷専務理事**より提案の理由、背景について下記のとおり説明した。

現在「外洋東海友の会」会計には2,600万円余りの資金が蓄財されている。当初の目的は外洋東海が主催するレースの事故等で敗訴し責任を問われた場合の資金の一部にするというものであったため、会員に毎年友の会会費を負担いただき、基金をためてきた。ただ、その当時保険制度が無かったが、現状では外洋レースにおいても主催者保険が整備され、これで問題は解決できる体制が整ったことから、現状15年以上前から会費の徴収をしていないし、現会員の半数以上はこの基金のことですら理解していないと思われる上に、この基金のために多額の負担をしてもらったのは現会員の5分の1程度とこれまでに退会された諸先輩の方々です。

1年前の理事会で同様の案を提案したところ、1年間くらいは慎重に検討し、会員にも状況を理解してもらう必要があると、保留となった経緯がある。そこで執行部ではいろんな方策を考えたがいい案が出ず、今回同じ提案をするに至りました。会費減額案の具体的な数字は年会費収入が100万円減になる案になっています。ただ、これとは違う別案があれば是非提案していただきたい。

**大島：**この資金がこの先残るといことは、先々困ることになると思います。会長を受ける時もこのお金の取り扱いを問題提起しました。そこで、広く皆さんに還元していくためには会費の操作しかないなど感じましたし、毎年会費と他の還元策を併せ、年200万円程度のペースで10年余りで減らしていったらどうかと考えている。

**中村**：会費を下げるというのであれば、他の方法としてはレース費を下げる等いろいろあると思うが、その方向性とどのくらいの期間でやるといったことを公言した方がいいと思う。年によって、内容が変わるようなことはしない方がいい。

**大橋**：会の活性化を目標にすることが大切で、会費を下げることは勧誘という面から意味があるのでいいと思います。一方で、入会しようと思うような仕掛けも重要で、JSAFに入るとこんないいことがあるといったアピールをするのにお金を使って、JSAFに魅力を感じ且つ会費が安い、では入会しようかというような状況に繋げていければいいのかなと思う。

大島会長出た意見を受け、本理事会としては会費の引き下げと会員への還元策等で、毎年200万円の金額を友の会から取り崩し、10年をめどに友の会資金削減に取り込むことについて決議を求めたところ、賛成多数で承認された。

この後坂谷専務理事から実施に向けては、2月の理事会で2023年度の事業計画、収支予算の審議をいただき、その中で友の会資金の取り崩しについては総会決議となるので、その内容について理事会で承認をもらってから臨時総会で友の会資金の取り崩し議案を提案し、承認をしていただくという手続きとなる旨説明があり、全理事了解した。

#### 7) 2023. 2024 年度代議員選挙について

**坂谷専務理事**から次のとおり説明があった。

現代議員は2021・2022年度任期の方なので、今回2023・2024年度任期の代議員選挙をする必要があり、常任委員の時のように告示をして立候補していただくという手続きに入ります。各フリートを代表するような人が代議員にはふさわしいので、各フリート・クラブから推薦いただきたい。改選数は会員30名当たり1名のため今回は10名となる。

#### 8) 各委員会委員の選任、検討について

**大島**：委員会報告のところで岩瀬さんを海事普及委員会に入っただけという提案をしましたが、ここで留め直させていただきます。岩瀬さんよろしく。

このリストを見ていると人材不足のような気がしますが、何とか協力してやっていきたいのよろしくをお願いします。

以上で協議終了し、午後9時会長閉会を宣し、散会した。

作成者 坂谷定生

2022年12月30日

議事録署名人 岩瀬喜貞

川合紀行